



TRAINING BY NUMBERS

数字で見るトレーニング

これまでベントレー モーターズのリテラー アカデミーは、全世界に向けてさまざまな手法で、そして多言語でトレーニングのプログラムを提供してきました。昨年から今年にかけてのトレーニングの状況を数字で振り返ってみます。

23,000

2015年にリテラー アカデミーが提供したトレーニングのトータル時間は、23,000時間にのびりました。

NINE HUNDRED & FIFTY FIVE 955

2015年に個別のトレーニングが必要とされ、新しいカリキュラムを案内したリテラーのスタッフの数は955人でした。

5%

トレーニングに対するリテラーの満足度は5%アップしました。

14

Eラーニングにおいて14モジュールを作成し提供しました。

15

マスター テクニシャンの資格を得た人は15人いました。

CONTENTS

- 1 TRAINING BY NUMBERS — 数字で見るトレーニング
- 2 COMPETITORS — メルセデス・ベンツ SL クラス
- 3 MOTOR SPORT — GT Asia 日本ラウンドの結果
- 4 QUALITY — ベントレーの品質向上プロジェクト
- 5 LATEST NEWS — 「Bentley By Me」 キャンペーン 他



- 6 BASIC KNOWLEDGE — ZF (ゼット・エフ)

60%

トレーニングのコースを増やしたり、各コースのボリュームを増やしたりした結果、全世界で提供したトレーニングのプログラムは60%増加しました。



Fifty seven

リテラーのネットワークの中でミュルザンヌ スペシャリストの卒業生は57人。お客様に提供するベントレーの体験と車の詳細な知識を身につけてもらいました。

800

2015年から今日まで、ベントレーのトレーニングプログラムに参加したリテラーのスタッフは800人にのびります。

4,753

現在までに完了したEラーニングのモジュール数は計4,753となっています。



10

2016年にベントレー アフターセールス エクセレンス (基礎) のコーチングプログラムを受講したリテラーは、全世界で10店でした。

トレーニングのプログラムは
計8カ国語に翻訳して
提供しました。



COMPETITORS INFORMATION [競合車情報]

ダイナミックに生まれ変わった最高級ロードスター —メルセデス・ベンツ SLの特長—

メルセデス・ベンツ日本は、2016年6月2日に新型SLを発表し、同日より販売を開始しました。SLはもともと同社の最高級ロードスターとして、長年スポーツカーの幅広いレンジをカバーする役割を担ってきました。しかし、近年はSLS AMGおよび後継モデルのMercedes-AMG GTといった2シーターのスポーツカーが設定されたり、最高級4シーターカブリオレとして新たにSクラス・カブリオレが導入されています。このように、SLは従来に比べてカバーするレンジが狭くなりました。そこで、60年以上の長い歴史を持つ最高級ロードスターモデルとして、ポジショニングをより明確にする改良が行われています。

エクステリア

歴代のSLは、常にスタイリッシュで美しいエクステリアを特長としていました。新型SLでは、主にフロント部分を中心にした変更を実施。メルセデスの現行モデルに共通するダイナミックなフロントマスクに生まれ変わりました。



末広りの形状となったフロントグリルをはじめ、ダイナミックなデザインに一新されたフロントマスク。

なかでも注目はフロントグリルです。これまでメルセデス各モデルのフロントグリルは、上部が広く下部に向かって狭くなるデザインを長年にわたって踏襲してきました。しかし、新型SLでは逆に末広りの形状となっています。これは1952年に誕生したレーシングマシンの300 SL パナアメリカナ (W194) が末広りのフロントグリルを採用していたことに由来するもの。



末広りのフロントグリルは、1952年のレーシングマシン、300 SL パナアメリカナ (W194) で採用されていた。

伝説的なモデルとなっているこの300 SLでは、フロントグリルが縦格子になっていることも特徴のひとつ。そのディテールについてはレーシングマシンのMercedes-AMG GT3ならびに新型車のMercedes-AMG GT Rで採用しています。末広りのフロントグリル形状は、当面SLおよびMercedes-AMG GT Rに限定されると思われますが、もし他のモデルに波及することになれば、同社のデザイン言語に大きな影響を及ぼすことでしょう。



リアまわりでは、テールランプとバンパー、ディフューザーの形状が変更されている。



FEATURE 1	FEATURE 2	FEATURE 3
フロントマスクを中心としたフェイスリフト	エントリーモデルのエンジンを刷新	一部車種にダイナミックカーブ機能を新搭載

新エンジンに換装したSL 400

今回のフェイスリフトを機に、従来のエントリーモデルだったSL 350が、新エンジンを搭載したSL 400に変更されました。SL 400の3.0リッター V6直噴ツインターボエンジンは、高性能直噴システムやカムシャフトアジャスターの採用などによりパフォーマンスと環境性能を高いレベルで両立させた、「BlueDIRECTエンジン」と呼ばれる最新世代のパワーユニットです。最高出力367ps、最大トルクも500Nmというスペックは、3.5リッター V6直噴エンジンを搭載する従来のSL 350に比べて、最高出力では61ps、最大トルクでは130Nmと大幅に向上。さらに従来からのスタートストップ機能やオンデマンド式オイルポンプ、優れた冷却システムなどにより、環境性能も向上しています。

トランスミッション

SL 400とSL 550には、SLでは初となる電子制御9速オートマチックトランスミッション「9G-TRONIC」が装備されます。従来の7速AT「7G-TRONIC PLUS」に比べて変速ショックとエンジン回転数の上昇が抑えられるため、快適性と効率性、俊敏性に優れています。



シャシー

4輪それぞれのコイルスプリングの作動を電子制御し、ダイナミックな操縦性と快適な乗り心地を両立するABC (アクティブ・ボディ・コントロール) には、新たにダイナミックカーブ機能が搭載されました。これ

はステレオマルチパスカメラがコーナーを検知すると、コーナー内側の車高を下げ外側を持ち上げることで、コーナリング時に車両を内側に傾けるもの。作動範囲は約15～180km/hの間で、コーナリング時に乗員がより安定して座れるメリットがあります。ダイナミックカーブ機能はすでにS 550 クーペとMercedes-AMG S 65 クーペに標準装備されており、SLではSL 400とSL 550に標準装備されます。

ルーフシステム

クーペカブリオレのパイオニア的存在でもあるバリオルーフも進化しています。従来はルーフを開く際にあらかじめトランク内のカバーを閉じておく必要がありましたが、今回からカバーが自動で閉じるよう改良されたため、ワンアクションでルーフ操作が可能になりました。また、停車中にルーフ開閉操作を開始すれば、約40km/hまで動作が継続できるようになっています。Sクラス・カブリオレでは約50km/h以下であれば走行中でもルーフ開閉操作が可能となっていますが、SLでは停車中に操作を開始しなければならないという違いがあります。



ラインアップと価格

新型SLは、上記に加えてSクラスと同等の「レーダーセーフティーパッケージ」、運転者の好みに応じて走行モードを選択できる「ダイナミックセレクト」などを装備。製品のコアバリューを大幅に高めています。

メルセデス・ベンツ SL 400:	車両本体価格 (税込)	12,650,000円
メルセデス・ベンツ SL 550:	車両本体価格 (税込)	16,980,000円
Mercedes-AMG SL 63:	車両本体価格 (税込)	22,770,000円
Mercedes-AMG SL 65:	車両本体価格 (税込)	33,830,000円

COMPETITORS INFORMATION [競合車情報]

限定モデルを矢継ぎ早にリリースするアストンマーティン

今年3月のジュネーブ・モーターショーで新世代の主力モデル「DB11」を発表し、大きな話題を呼んだアストンマーティン。その後も限定モデルを次々に発表し、活発な展開を見せています。そこで今回は、4月以降に本国で発表されたニューモデルについて簡単に振り返ってみたいと思います。

ヴァンテージ GT8 2016年4月15日発表



2016年モデルのV8 ヴァンテージ GTEレーシングカーをインスパイアしたレース直系モデル。4.7リッター V8 エンジンは最高出力446psを発揮。「V8 ヴァンテージ史上最軽量・最強」を謳うだけに、ルーフパネルを含む各種ボディワークやスポーツシート、ドアパネルなどがカーボンファイバー製となり、リアウインドウおよびリアサイドウインドウはポリカーボネート製に置き換わります。この結果、最大100kgの軽量化を実現。150台の限定生産で、価格は165,000ポンド(約2,310万円)から。納車開始は2016年第4四半期を予定しています。

DB9「Last of 9」 2016年6月16日発表



DB9の有終の美を飾る最終モデルとして、DB9GTのクーペとヴォランテを各9台、計18台を製造。そのうち日本には3台が導入されます。製造は同社のビスポーク部門である「Q by Aston Martin」が担当。内外装には専用アイテムが豊富に用意されます。また、購入特典として、製造プロセスを記した特製ブックの贈呈、オーナーズクラブへの登録、本社工場での製造工程見学などが含まれています。

ヴァンキッシュ・ザガート 2016年6月21日発表



イタリアの伝統的なカロッツェリアであるザガートとのパートナーシップにより誕生した5台目のモデル。ボディパネルはカーボンファイバー製で、「ダブルバブル」ルーフ、円形リフレクターを備えるテールライトなど、内外装の各部にザガートの伝統的なアイコンを採用しています。99台が製造されるこのモデルはすでに完売しており、デリバリー開始は2017年の第1四半期と発表されています。

AM-RB 001 2016年7月5日発表



アストンマーティンとF1コンストラクターのレッドブル・レーシングのパートナーシップにより製作されるハイパーカー。F1デザイナーのエイドリアン・ニューウェイも開発に携わっています。公道での扱いやすさとサーキットでの圧倒的なパフォーマンスを両立し、ミッドシップには新開発の高回転型V12自然吸気エンジンを搭載。パワーウェイトレシオは1.0と発表されています。製造台数は、プロトタイプと25台のサーキット専用モデルを含めて99～150台を予定。デリバリー開始は2018年より開始される予定です。

MOTOR SPORT [モータースポーツ]

GTアジア、岡山でFong/Kim組が優勝を含む連続表彰台！
富士の第8戦では澤/Venter組が2位に

GTアジアの第5・6戦が7月1～3日に岡山国際サーキットで、第7・8戦が7月15～17日に富士スピードウェイで開催されました。ベントレー・チーム・アブソリュートは、岡山の第5戦でAdderly Fong/Andrew Kim組が優勝しました。Fong/Kim組は続く第6戦でも3位に入り、連続表彰台でコンチネンタルGT3の強さを日本のファンの前で強烈に印象づけました。富士スピードウェイで行われた第8戦では、澤圭太/Jonathan Venter組が2位。韓国での開幕ラウンドで2連勝した時に近い力強い走りを見せました。これでベントレー・チーム・アブソリュートのチーム総合順位は186ポイントで1位。2位のフェニックス・レーシング・アジアとは49ポイント差となり、総合タイトル連覇に向け、残り4戦を全力で戦います。



岡山での第5戦で優勝したFong/Kim組のコンチネンタルGT3



澤/Venter組のコンチネンタルGT3はトラブルを抱えながらも力走。



韓国ラウンド以来の表彰台で笑顔を見せる澤選手とVenter選手。



Adderly Fong選手のコメント
(第5戦を終えて)

毎年こういった勝利に向かって努力しているので本当に嬉しいです。日本はレースをするうえで大好きな場所の1つ。これ以上ないくらいすべてがうまくいきました。



澤圭太選手のコメント
(第8戦を終えて)

韓国での2連勝以来、再び表彰台に上がることができて嬉しいです。スタートからいくつか問題があってプッシュしきれませんでしたが、ホームサーキットの富士で2位になれたことは本当に幸せです。

レース当日はVIPのお客様を招待して
イベント開催

岡山と富士でのレース当日には、ベントレー・チーム・アブソリュートはVIPのお客様を招待してイベントを開催しました。ピットでの整備の様子を間近でご覧いただいたり全選手を紹介したり、会場は大いに盛り上がりました。

QUALITY [クオリティ]

ベントレーの品質向上プロジェクト

ベントレーは2025年を目標に現在の品質をさらに向上させるプロジェクトを推進しています。そのスタートにあたる2016年はベントレーにとって重要で、品質向上のため社内で横断的な取り組みを行っています。



5 WORKSTREAMS
— 5つのワークストリーム —

サプライチェーンからアフターセールスに至るスタッフの間でしきりに使われ始めたフレーズに、「ミスを送りにしない (No faults forward)」というものがあります。これはひとつの考え方ではありますが、ベントレーではどんな仕事をするにしても要求されている水準は満たさなければなりませんし、もし何らかの理由で問題が発生した際でも、最も効率的な方法で解決できるようになります。

「ミスを送りにしない (No faults forward)」は、製品のライフサイクル全般におよぶ5つのワークストリームで品質向上を目指すプロジェクトにおける核心ともいえます。これは「開発」から始まり、「供給されるパーツ」「スタートから完成までの製造部門」「お客様の手に渡ってからの保証にもとづく品質管理」のワークストリームを指します。そして、「品質管理」がこれらのビジネスの全ての流れを把握し管理します。



THE QUALITY
PROJECT THEMES

品質向上プロジェクトのテーマ

- お客様の目線で考える
お客様の満足度が組織の行動を決定づける
- 品質の水準
スタッフはお客様の期待とその水準を理解する
- プロセスでのパフォーマンス
全てのプロセスにおいて、高い信頼性と組織的な向上というベントレーが求められる結果を出さなければならない
- 品質と行動
全てのスタッフはベントレーの価値観のもとで生きているのだから、お客様の期待に沿うよう行動する

QUALITY INSIGHT

各ワークストリームのリーダーはこう考える

品質向上プロジェクトにおける5つのワークストリーム。それぞれの部門のリーダーは、品質向上についてどのように考えているのでしょうか。



DANNY SILCOCK

Final Assembly Planning Manager for Processes

品質を向上させるための鍵となるのは、お客様が何をいつ必要としているのか理解することです。ですから、正確な情報を正しいタイミングでご提供しなければなりません。



ANTHONY DRISCOLL

Supplier Quality Pre-Series Manager

常に自分自身に問いかけることです。これで本当にベストを尽くしたと言えるのか、それとももっと良くできるのか、と。そして正解は常に「もっと良くできるはず」なのです。



STUART ANDREWS

Operations Manager for Production Quality

私たちは工場から出荷される前に全てのクルマを検査します。スタッフには常に全てのプロセスで自分たちが品質の門番である必要がある、と話し、最大の結果を出すよう求めています。



MICHAEL BOTTOMLEY

Critical Concerns Manager

もし問題が起きた場合、根本的な原因を見つけ出すことが正しい解決法となります。そして改善し続けることが、長期的に見ると将来のモデルの品質向上につながっていきます。



PHILIPP HEINE

Assistant to Member of the Board for Sales & Marketing

品質管理で最も重要なことは、常にお客様のことを念頭に入れて行動することだと考えています。



PAVOL ZAIC

Head of Production Quality

ベンテガで新しいお客様を獲得したければ、品質以上に重要な要素はありません。品質管理は、お客様に心の底から喜んでいただければじめて達成できるものなのです。

LATEST NEWS [最新情報]

TOOLKIT


ベンテイガやミュルザンヌの
ツールキットがDMNから
ダウンロード可

現在ベンテイガとミュルザンヌの最新ツールキットが、ディーラー マーケティング ニュース（英語）からダウンロードできるようになりました。ベンテイガのツールキットは「In-Market Launch Guidelines」。ベンテイガ導入にあたってのローンチイベントに関するガイドライン集ですが、既納顧客や見込み客への訴求方法や訴求するタイミング、想定されるお客様のキャラクターなども記載されていますので、セールス活動の参考にするという意味でも、ダウンロードして一読することをお勧めします。

ミュルザンヌは17MYの画像（ロケ撮影、スタジオ撮影）や動画データ、デジタル用のバナーなど、マーケティング活動で活用できるツールのダウンロードが可能です。こちらも積極的に使用してください。



BENTAYGA TOOLKIT

 <http://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/news/news-from-crewe/new-toolkits-and-assets-available.html>

MULSANNE TOOLKIT

 <http://retailer.bentley.co.uk/content/dmn/en/downloads/mulsanne.html>

CAMPAIGN

Care2Saveと「Bentley by Me」
キャンペーンを実施

ベントレー モーターズは、ホスピスでの緩和ケアなどを支援する慈善団体Care2Saveと「Bentley by Me」キャンペーンを実施しています。

キャンペーン期間中にCare2Saveに寄附をすると、抽選で1名にコンチネンタルGT V8が当たるというもの。当選者はボディカラーとインテリアのハイドを自由に選ぶことができます。

ベントレー モーターズは本社のあるクルーをはじめとする周辺地域とともに発展してきました。同じCheshierにあるSt. Lukesホスピスとは同ホスピスが開業した1983年以来、30年以上にわたり金銭的および技術的な支援を行ってきました。ベントレーと同様にSt. Lukesホスピスを支援してきたCare2Saveと手を組むことで、Cheshierのみならず全英、そして全世界的に緩和ケアを支援することになったのです。

先月のグッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードでは、英国ポップアートの巨匠・ピーター・ブレイク卿がデザインしたコンチネンタルGT V8 Sのオークションを行い、収益金を全額Care2Saveに寄附しました。



BENTLEY BY ME

 <https://www.care2save.co.uk/bentley/bentley-by-me/>

TOPICS

宇宙探査技術を用いて撮影した
ミュルザンヌの超高解像度画像を公開

ベントレー モーターズは、Rose GoldとMagneticのデュオトーンに仕上げたミュルザンヌ エクステンデッド ホイールベース（日本への導入はなし）がサンフランシスコのゴールデンゲートブリッジを渡る超高解像度の画像を公開しました。火星探査機でパノラマ撮影を行うためのNASAの技術を用いて撮影されたもので、700mの遠景からフロントシートに施されたウイングドBの刺繍までズームインし、4500個のステッチの1つひとつを確認することができます。一般的なスマートフォンで撮影した写真の4425倍という高画質で、画素数は530億ピクセルです。1カ所から撮影した700枚のデジタル画像が合成されることで遠景からディテールまで表現することが可能となっています。

Kevin Rose取締役（セールス、マーケティング担当）は、「ベントレーが誇るディテールへのこだわりを実感していただける車がミュルザンヌです。この画像を通じ、精緻を極めたミュルザンヌのディテールと、私たちのブランドが描く壮大なビジョンをお伝えしたいと考えています」などとコメントしています。



■ 画像はこちらから見るができます。
<http://www.bentleymotors.com/en/apps/look-closer.html>

GOLF

Bentley Golfに日本製ギアを採用

ベントレーはこのほど、ハンドメイドのゴルフクラブでマーケットのリーダー的存在であるプロフェッショナル・ゴルフ・ヨーロッパ（PGE）とコラボレーションした新しいゴルフ関連商品「ベントレー ゴルフ」を発表しました。ベントレー ゴルフのラインナップはゴルフクラブ、ゴルフバッグ、そしてアクセサリ類です。このうちゴルフクラブ、特にアイアンヘッドは兵庫県市川町で製造されたものを採用。市川町は国産鍛造アイアン発祥の地として知られており、手作業で鍛造されたアイアンの性能は別格とされています。また、シャフトもプロゴルファーからの評価が高いSHIMADA製が用いられるなど、日本の高い技術力とベントレーの物づくりに対する哲学が融合したゴルフクラブとなっています。

クラブやバッグのデザインはベントレーならではの。クラブにはコンチネンタルGTのリアフェンダーアーチのモチーフが取り入れられたり、ゴルフバッグにはダイヤモンドキルトが施されたりしています。



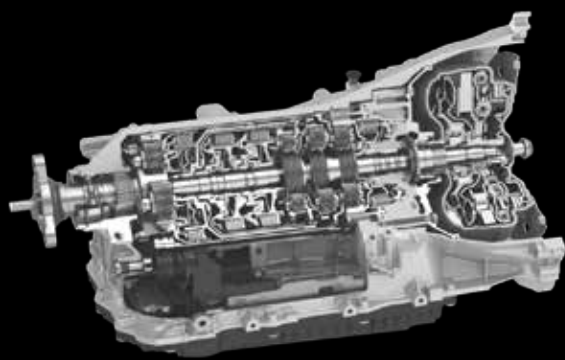
BASIC KNOWLEDGE [基礎知識]

The Parts Supplier of Bentley Vol.2



ZF

共同開発を経て、ベントレーの各車両に専門部品を供給しているパーツサプライヤーメーカーを紹介する「The Parts Supplier of Bentley」。
第2回はトランスミッションメーカーとして世界的に知られるZF（ゼット・エフ）です。



ZFの歴史

ドイツ・フリードリヒスハーフェンに本拠を置くZF社は1915年の創業。あの有名な飛行船ツェッペリン号のギアホイールやトランスミッションの製作を手掛けたあと、ほどなく自動車業界へと進出します。自動車に欠かすことのできないトランスミッション専門メーカーとして、世界の自動車メーカーとともに発展を続けて来たZFは、今日では駆動系、シャシーテクノロジー、アクティブ&パッシブセーフティテクノロジーへと拡大。世界40カ国に230の事業所を持つ、タイヤを除く世界の自動車機器サプライヤーのトップ3に入るグローバルメーカーに成長しました。ZFの持つ先進テクノロジーは乗用車やトラックにとどまらず、建設機械、農機、鉄道、船舶、風力発電などでも活かされています。

ベントレーとZF

自国のメルセデス・ベンツやBMW、フォルクスワーゲングループはもちろんのこと、フェラーリ、ジャガー、ホンダ、シボレー、シトロエン、ヒュンダイなどなど、世界中の自動車メーカーに製品を納入しているZF。ベントレーも例外ではありません。

ベントレー各モデルに採用されている8速オートマチックミッションは、トルクコンバーターも含めてZFで製造されています。それ以外にも、例えばコンチネンタルGTではエアバッグシステム、ステアリングのセーフティシステム、サスペンションのダンピングコントロール、シャシーコンポーネント、電装システム、レーダー、電子制御パーキングブレーキに、ZFの部品やシステムが採用されています。ドライブトレインやシャシーコンポーネントを1つのサプライヤーと共同開発するメリットは、各部品の調整に時間を費やすことなく、性能や快適性のバランスを取りやすい点にあります。それらのコンポーネントをトータルで開発・供給できる技術と体制を備えたZFとの関係は、これからも継続されていくことでしょう。



モード選択や走行状況に応じてダンパー特性を切り替える可変ダンピングシステムは、ZF社の最も得意とする分野のひとつとなっている。



世界でもトップクラスの性能を持つZF製のオートマチックトランスミッション。ベントレーをはじめ、世界中の多くのメーカーが採用しています。

F1からツーリングカー、ラリーまで

意外に思われるかもしれませんが、ZFはトランスミッションメーカーとしてモータースポーツにも積極的に参戦してきました。1961年から68年まで英国のロータスF1チームにトランスミッションを供給したのを皮切りに、ツーリングカーレース、耐久レース、ラリーなど、国際的なレースから各国の国内選手権まで、様々なレースに挑戦して技術を磨いてきました。

現在も、F1のフェラーリ、マクラーレン、トロ・ロッソにショックアブソーバーを供給しているほか、DTM（ドイツ・ツーリングカー・マスターズ）ではクラッチシステムを独占供給。WEC（世界耐久選手権）やWRC（世界ラリー選手権）の有力チームにも、クラッチやダンパーを供給中。スーパーGTやPCCJのサポートを通じて、ZFのロゴマークは日本のサーキットでもお馴染みの存在となっています。

全日本学生フォーミュラのサポートや子どもを対象にスーパーGTレースに関わる様々な仕事を体験してもらう「ZFキッズドリームジョブ」などを通して、モータースポーツの底辺拡大に尽力。ベントレーはもちろん、サプライヤーもこうした活動を行っていることを、ぜひセールストークの中でお役立てください。



2001年にドイツのショックアブソーバーメーカーSachs社を傘下に収めたZF。「ZF Sachs」のサスペンションシステムは高い評価を得ています。



半世紀以上に渡ってモータースポーツに参戦。世界中の様々なレースにトランスミッションやクラッチ、ショックアブソーバーなどを供給しています。